

期末レポート

今学期は、とても充実した学期でした。

前回の留学が終わって以来、この3年間ずっと日本へ戻ることを切望し、いろいろな方法を試み
て・いろいろ努力していました。、コロナ災い・パンデミックのせいで叶うことができませ
んでした。。

しかし、あきらめるところで奇跡のように、日本がついに開国するというニュースを聞きまし
た。ずっと来日できることを祈ってやまなかった私は、ようやくその願いを叶えたことでとて
も嬉しく思います。自分の心があるべき場所に戻るチャンスを与えてくれたお茶の水女子大学
に、いつも心から感謝しています。

私は、前期で、お茶の水女子大学での生活を体験し・経験し、素晴らしい先生方にお会いする
機会に恵まれ、今までの交換留学を本当に充実に過ごすことができました。特に、交換留学で
一番成し遂げたい目的は自分の研究の完成です。それに関して、高松先生、天木先生、小谷
先生、そして私の指導教官の小林先生のような先生方から、たくさんの貴重なご助言をいただ
いたことに、心から感謝を申し上げます・感謝の言葉を尽くしても伝えきれません。

お茶大で1学期過ごし、色んな貴重でよい体験をした中、交換留學生の視点から、改善の余地
があるところに対して、自分なりの考え方を述べたいと思います。

授業

ヨーロッパの大学では、講義は背景知識と論理的・批判的思考法を提供し、学生たちの思考
を促し、宿題がなく、その代わりに、ケーススタディとリーディングリストが課せられます。
しかし、お茶大に限らず、日本の大学の講義は基礎知識の提供にとどまり、ディスカッション
が設けられても、学生がそのトピックに関する背景知識が足りない状態のままで議論を進めて
いる状態に陥っています。

また、宿題に関して、宿題の目的は学生の自主的学習と思考を促すことではなく、授業の知識
をちゃんと学んだかどうかの確認にとどまっています。その量も膨大で、ほとんどの授業外の
時間を占め、学生の自主学習を妨げることになっています。

ですから、宿題で生徒を圧迫するのではなく、授業で学べることにもっと焦点を当てるべきだと思います。また、宿題が多すぎるとストレスがたまり、生活と勉強のバランスが取れなくなる可能性もあります。

最後に、交換留学生の間で非常に議論を呼んでいるのが、AHL という授業形態です。私はさらに AHL で学生の時間を占める必要性が見えていない。各授業では、すでに多くの宿題が出されて、学生はほとんど自由時間がない状況の中で、AHL はどのように学生の学習に役立つことができますか？

寮

寮の管理が厳しすぎて、時々意味が分からなくなることがあります。

日本の寮に門限があるのは多少理解できますが、門限の時間を過ぎると、オートロックで中に入ることはおろか、建物から外へ出ることもできないというのはどう考えてもおかしい。全てはオートロックになっていて、管理人も夜の 10 時からいなくなり、いざのことがある時、寮生の安全が確保できない可能性があります。

システム上管理しやすいかもしれませんが、寮生の安全を第一に考えていない制度だと思います。今年 3 月にできたばかりの寮なので、これまでは門限を守れなかったり、延長を忘れてたりしても、今の季節で外で夜を過ごすことがまだできます。冬になると、気温も下がり、さらに雨が降る中としたら、オートロックのせいで寮に戻れない寮生はどうなりますか。セキュリティの考え方は理解できますが、最低限、寮にいる人が内側からドアを開けられるようにする必要があります。

円滑な運営は確かに重要ですが、制度やルールは、人々の安全を確保することを優先すべきです。それを保証できない時、改善策が必要だと思います。